士會奈良

健康教室

11月号　VOL. 511

Contents

建築士会として災害復旧に
どう取り組んでいるか… 1

桜井駅前地区まちづくりの
最近５年間の経過報告と
今後について…… 2

国立大学法人奈良女子大学
第13回　光と色による
環境デザイン…… 3

連載―奈良県景観
デザイン賞2018―…… 5
知事賞・リノベーション賞

全国ヘリテージマネージャー
ネットワーク協議会総会記録／
第62回建築士会全国大会
「北海道大会」報告 …… 6

お知らせ
編集後記　他…… 7

表紙の人

「表紙の人」は奈良県立医科大学ＭＢＴ研究所　講師の遊佐（ゆさ）敏彦（としひこ）さんです。

大学で都市計画学を専攻し、移住や空き家の研究を行い、2012年より奈良県橿原市に移住し、医学と都市計画学の学術的な研究を行うほか、高取町のまちづくりにも関わっています。

これまでは病院の中で完結していた医療が、昨今では、在宅や地域コミュニティに深く入り込む時代になってきているといえます。奈良県立医科大学では、地域住民の健康寿命を延伸し、ひいては医療費を削減するための、適材適所のサービスを効率よく行うしくみを、地域の中に計画し、まちも人も健康になるためのしくみとして、「医学を基礎とするまちづくり、Medicine-Based Town、以下ＭＢＴ」を提唱しています。

まずは奈良県橿原市と連携し、重要伝統的建造物群保存地区「今井町」の中で、まちなか医療を展開する試みを行っています。第一弾として、海外から奈良県立医科大学に招聘した外国人医師･研修医が短期滞在する施設として、「奈良県立医科大学今井町ゲストハウス」をつくりました。この施設には、30㎡前後の部屋が４室ありますが、利用者が入れ替わる空室期間を利用して、大学教員や医師が地域住民のための健康相談や健康測定などを行う行事を開催することもあります。また、橿原市が今井町内に整備した「今井まちや館別館」等を利用して、「健康教室」を開催しています。医師や研究者、看護師、医学生、看護学生などの医療従事者が、地域に出て、地域住民との接点を増やすことで、住民の健康維持、病気の早期発見に寄与することをめざしています。

完成した奈良県立医科大学の今井町ゲストハウス

SHIKAI 2019 NARA

建築士会として災害復旧にどう取り組んでいるか

（公社）日本建築士会連合会　まちづくり委員会

台風15・19号の被災地の皆様には、心よりお見舞い申し上げますと共に早期に復旧されることをお祈り申し上げます。

さて、10月14日に、（公社）日本建築士会連合会内に、災害対策特別委員会が設置されました。委員会では、災害は東海･関東甲信越･東北を中心に広域的に甚大な被害が生じており台風災害に係る情報収集､各士会への情報の発信､情報の共有等を行うことになりました。今後、被災都県に対して、建築士がどのような支援を行えるのかを検討し、過去の災害経験をふまえて各士会において作成された以下のマニュアルなどの情報についてはホームページを通じて提供することとなりました。

- 風水害等による被災住宅復旧マニュアル（公益社団法人徳島県建築士会：編）
- 建物浸水被害復旧のポイント（一般社団法人佐賀県建築士会　危機管理対策部会：編）
- 浸水後の「壁・床」内部の対処について（ご注意‼）（一般社団法人佐賀県建築士会　危機管理対策部会：編）
- 建築士による罹災証明書発行の住家被害認定調査マニュアル（公益社団法人大阪府建築士会：編）

また、総務省消防庁ホームページの「台風による被害及び消防機関等の対応状況」、内閣府防災情報のページの「災害に係る住家の被害認定」なども（公社）日本建築士会連合会のホームページとリンクしています。

（公社）日本建築士会連合会の防災まちづくり部会では、各地域リーダーから、「連合会は何もしないの？　何をすればよいの？」の意見を頂いております。被災住民の被災住宅を一日も早く復旧させて、日常の暮らしを、より早く実現させるためには、部会として、各地域リーダーにできるだけ被災現場の情報をお送りし、応急的な対策や復旧に向けた対策についての情報を提供することとしています。

そして、今の段階では、被災者には、できるだけ「焦らないこと」をお伝えすることも大切だと考えています。不安なこともたくさんありますが、残念ですができることには限りがあります。自分の健康を維持して、復興に向けた長丁場を乗り切れるように、私たちは、被災者に寄り添い、励ましと共に、建築士として職能を踏まえた的確なアドバイスを継続することも重要な役割だと思います。そして、佐賀士会から、「８月豪雨により被害の応急対応について」、木造応急仮設住宅の供給については、和歌山士会が情報提供しています。

また、（公社）日本建築士会連合会の歴史的まちづくり部会及び全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会からは、歴史的建築物等の被害状況の把握について必要な場合には、各地域から都道府県を通して国に支援要請をしていただければ支援する体制が整っています。

このように、（公社）日本建築士会連合会や各建築士会では、建築士として可能な支援を検討しています。奈良県では、幸いにも、今回の台風による被害は比較的少ないものの、今後、いつ何時被害を受けるかもしれません。建築士会の会員は、マニュアルなどの情報を常日頃から確認しておくことが重要だと思います。

（記・（公社）日本建築士会連合会まちづくり副委員長　米村博昭）

桜井駅前地区まちづくりの最近５年間の経過報告と今後について

大和さくらい万葉まつりに関わった仲間がネットワーク構築（20 年前～）

建築士会　大学　商工会　信用金庫　自治会　桜井木協

ポイント；イベントの意義；仲間をつくれば次につながる

民　間
本町通周辺まちづくり協議会

行　政
桜井市 ＋ 奈良県（連携協定）

最近５年間の経緯　　**キーワード「公民ボーダレス」**

●第一ステップ（平成 26 年）

前副市長を座長とし、官民によるまちづくり検討会を設置

ポイント；責任ある立場（部課長級）でプラットフォーム形成

桜井駅南エリア 1300 件建物調査（空き家、歴史的建造物を把握）文化庁採択

ポイント；関わった学生は，そのまま地元就職につなげる

●第二ステップ（平成 27 年）

３つの作業部会（①公的資源部会、②民間資源部会、③景観資源部会）設置

ポイント；建築基準法の適用除外は，条例が必要

①エルトの検討　②空き家利活用提案　③景観デザインコード作成

2020 年桜井駅南口アリア将来ビジョン作成し、市長へ提言

ポイント；出口を見据えてワークショップ開催。発表→整理→公開→実現へ

●第三ステップ（平成 28 年）

都市再生整備計画を作成、地区まちづくり基本構想策定

エルト桜井利活用事業手法等検討委員会発足

ポイント；まちづくりを担う人（経験豊富な定年退職者は適任）と企業発掘

都市再生推進法人桜井まちづくり株式会社設立

●第四ステップ（平成 29 年）事業化スタート

ポイント；継続可能な収益源は何か？行政と共に学習し知恵を出す

収益の柱；ふるさと納税返礼品業務を市→商工会→まちづくり会社が受託

●第五ステップ（平成 30 年）

サブリース事業（銀行跡レストラン、古民家カフェ）

ポイント；新たに誘致した店は継続するようにサポートする

高級町宿を直営→登録有形文化財申請（検討中）

ポイント；エリアマネジメントを通じて全国他地域とつながる

桜井駅前エリアマネジメント（広場整備と活用）構想を市長提言 国交省採択

●第六ステップ（平成 31 年～令和元年）

エルト２階；子どもの遊び場「ボーネルンド」+高校生の学習室設置（市）

ポイント；地元金融機関が企業誘致をサポート

エルト１階；スーパー、居酒屋・寿司屋・焼鳥屋・フードコート誘致

駅前広場と桜井本町をつなぐ「そら本町フェスタ」開催 試行的イベント

ポイント；公共・半公共スペースを有効活用しマルシェ・広告等で収益を生み、まちづくりで還元

３回のワークショップ結果をまとめた構想図を実現するため今年 10 月～検討会再スタート

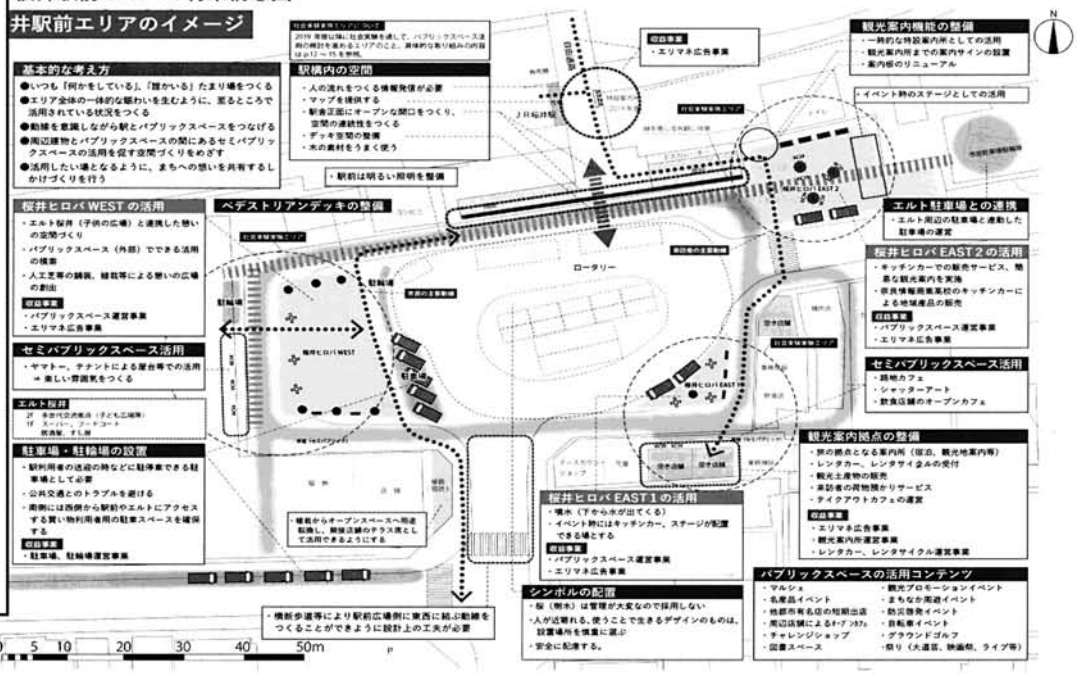
＜現時点での主な成果＞

- ふるさと納税額３年間 560 万円→２億円 550 品目
- 新規店舗数　　９店舗増
- 新規常時雇用者 35 人増
- エルト２階４万人/5 ヵ月
- 寄付者＝関係人口増加

＜今後必要な取り組み＞

- 景観デザインコードを守るよう意識啓発
  →修景補助の積極的活用
- 建築基準法適用除外には条例策定が必要
  →行政と士会との連携
- 新店舗へ継続サポート
- さらなる空店舗利活用
- 右図の駅前広場実現化
  →試行的イベント開催
  →公共スペース活用
  →半公共スペース活用
  →観光交流拠点の整備

桜井駅前ヒロバの将来構想図



レポート；中尾七隆（桜井支部）

生活環境科学系住環境学領域の教育研究の現状とビジョン

第13回　光と色による環境デザイン―時空間分布のコントロール

国立大学法人 奈良女子大学

奈良女子大学で建築装備学研究室を構えて25年目、専門は建築環境工学の光・視環境、環境心理生理です。学部では、視環境計画を軸として、知覚の特徴・心理評価の数量化、標示物の計画、照明計画、窓の計画、色彩計画に関する教育を担当しています。

研究では、明視計画と雰囲気計画を共に取りあげ、何れにおいても利用者の視覚特性を考慮した視刺激の時空間分布制御を重視しています。研究成果は、国内では主に照明学会、建築学会を通じて公表しています。他には人間工学会、色彩学会、家政学会などです。国外ではＣＩＥ（国際照明委員会）、ＡＬＣ（アジ照明委員会）、ＡＩＣ（国際色彩学会）などです。現在の研究テーマの中から数件紹介致します。

１．高齢者と若齢者の適正照明（加齢、光量と色）

加齢に伴い様々な機能が低下し、視覚も例外ではありません。そこで、高齢者などの視覚的弱者に配慮した快適視環境計画を行うための知見の蓄積に努めています。見えの不自由を解消する事は積極的な社会参画につながり、自立した社会生活を支援します。

表１は生活行為別照明条件を実験室で調べた結果です。被験者は若齢者・高齢者ともに８名、各条件３回試行で年齢層別に延べ24回答です。図中のバブルは適正申告率、曲線は等申告率線です。若齢者は色温度（光の色、低＝赤味、高＝青白い）と照度（光の量）の両者によって、高齢者は主に照度によって適正条件が定まります。両年齢層で適正範囲は異なりますが、共通範囲もあります。このような知見に基づいて、パーソナル空間か、パブリック空間かなどの室の用途と目的に応じて目標照度を選択することで、幅広い年齢層に受け入れられる照明計画が可能です。

２．視環境の動的計画（順応特性、時間分布）

目は変化した視野輝度に即座には順応できず、大きな変化が生じると一時的な視力低下が生じます。この現象は、暗い空間、例えば劇場などに入ったときに体感できます。

図１左図は、停電時の非常用照明点灯方式の提案（太線）です。最初は基準より高い照度で点灯し、回復率Ｒ（Ｔ）の時間特性（四角、順応特性）に添わせて基準照度まで漸減させます（順応配慮型点灯方式）。最初から基準照度で点灯させる従来型（細線）に較べ電力消費量は若干大きくなりますが、その時間は20秒前後なので十分に対応できます。

図２右図は、平常時1000ｌｘの場合において、停電後順応配慮型方式に依って視野輝度を10ｌｘで点灯させ、その後約20秒かけて1.0ｌｘに漸減させた場合と、最初から1.0ｌｘで点灯させる従来型、それぞれについて視力が0.3に回復するのに要する時間の測定結果です。年齢に関わらず順応配慮型方式では視力回復時間が大幅に短縮されます。その結果、見えの低下による避難障害や不安感からのパニックなどの二次災害が抑止されます。即時に高い視認性を確保しようとする場合や低視力者に特に効果的です。

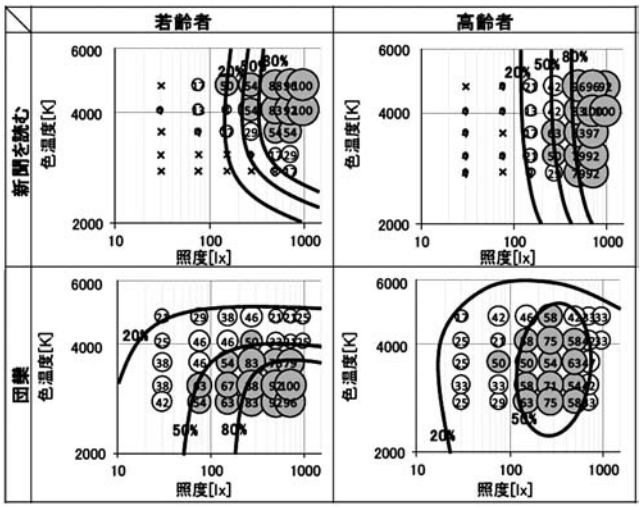


表１　高齢者と若齢者の適正照明条件[1)]

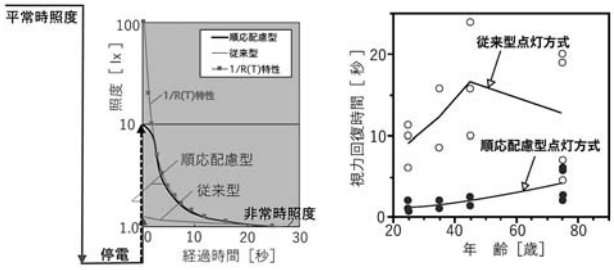


図１　点灯方式と視力回復時間（回復視力0.3）[2)]

表１に示すように、生活行為に応じて適正照度・色温度は異なるため、順応特性を考慮した点消灯や調光調色は、非常時に限らず生活の中の様々なシーンで求められます。

３．背景寸法の見やすさへの影響（眼球内散乱光、空間分布）

同一視対象であっても背景の大きさによって見やすさが異なる場合があることに気づいている人はどの程度いるでしょうか。主として眼球内散乱光の作用で、視対象の視認性には背景の大きさが影響し、視認性を保証するには視対象と背景の大きさの関係を把握しておく必要があります。

図２は視対象と背景の輝度差弁別閾値（≒かろうじて見分けられる視対象と背景の輝度（光の量）の差）の測定結果です。４つの背景寸法について示しています。閾値が低いほど視認性は高く見えやすいことを示します。何れの背景寸法の場合でも、視標が小さいと閾値は高く見えにくいのですが、視標が大きくなるに従って閾値が低下し見やすくなります。しかし、視標が更に大きくなり背景寸法に近づくと、再び閾値は高くなり見えにくくなります。図に示すように、眼球内散乱光が多く生じる高齢者などの低視力者では、この現象が高視力者に較べて明瞭に表れます。

視対象の近くに光源がある場合や、背景の大きさと輝度

略歴：井上容子（いのうえ　ようこ）
奈良女子大学生活環境科学系教授、工学博士。1954年７月生。19984年３月、大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻単位取得満了、現在、光・視環境計画に関する研究・教育活動に従事、2013. 4-2017. 3、奈良女子大学理事・副学長。2016. 6-2019. 6、照明学会会長。社会活動として、文部科学省大学設置審議会他、環境省皇居外苑における照明のあり方検討会、日本学術振興会国際事業委員会他、大阪府等の建築審査会、奈良県各種審議会・収用委員会他、などの委員を歴任。
受賞歴：2016年照明学会賞（研究業績賞）、2016年照明学会功労賞。2012年日本建築学会賞（視覚特性の個人差に対応した視環境計画法に関する研究）、2009年照明学会論文賞（個人の視認能力を考慮した色の三属性の細部識別閾への影響）他

が同じであっても小さい文字ほど読みにくいのも眼球内散乱光の作用です。眼球内散乱光による見えの低下を一般に減能グレアと言います。グレアといっても、不快グレアとは異なり、眩しさが生じない事も非常に多く自覚しにくい現象です。そのため、設計段階で排除することが視認性の確保、すなわち作業性や安全性の確保にとって重要です。

４．タスク＆アンビエント照明ＴＡＬ（適所適光、空間分布）

タスク照明は視作業のための照明であり、アンビエント照明は視作業以外の周辺環境の安全性と空間の明るさの確保のための照明です。機能分担することで、在室者の視作業領域における照度を下げないで、視作業に直接影響しない領域の照度を下げることが出来、大幅な節電を行いながらも視作業性と快適性を損なわない照明方式です。ＴＡＬは1970年代に提案され、欧米では現在広く浸透し、標準的照明方式となっています。

しかしながら我が国においては、ＴＡＬは空間の不均一さと暗さから利用者評価が天井全般照明には遙かに及ばず、普及が一向に進みません。図３に照明方法による空間と机上面の印象評価の違いを示します。前面壁をスポットライトやウォールウォッシャーによって照らす（アクセント照明）ことで、タスク照明だけの場合に較べて空間・机上面の印象評価は明らかに改善されます。アクセント照明の消費電力は極めて小さいため、タスク・アンビエント・アクセントの３種の照明を併用することで、消費エネルギーを押さえ、かつ不快感を解消できます。このアクセント照明の認知度を上げることで、ＴＡＬの普及が促進すると考えられます。また、将来、新光源の出現によって壁面材自体が発光すれば、アクセント照明の導入も容易です。

５．有彩色光照明（光の色）

2005年のＴＶ番組を切掛けとし、奈良を発信源とした全国的青色防犯灯ブームを記憶しておられるでしょうか。有彩色光は明視の観点からは、即座には受け入れられない光であるため、照明学会関西支部活動として検証を行いました。奈良県・大阪府での実態調査、視認性や印象の評価実験を行い、成果を「有彩色光照明ガイド:防犯照明の課題」として照明学会より出版しています。

ＬＥＤの普及とともに多彩な照明光が生活空間を彩るようになりましたが、それによる視環境の質低下が生じないための情報発信がわれわれの責務だと考えています。

６．おわりに

ＬＥＤに代表される固体光源ＳＳＬの照明用光源としての台頭を契機として、日中韓米における住宅照明調査を開始しました[5]。欧米主体の今日の照明基準を見直し、アジアの風土と文化に即した照明の提案を目標とし、併せて住宅照明に於けるＬＥＤのめざましい普及を照明文化の変遷として記録する活動を行っています。2011年の約25%から2017年の約75%までほぼ線形的に普及し、それ以降は80%付近で飽和しています。約20%の家庭がＬＥＤ未使用で、導入住宅も全てがＬＥＤ器具ではありません。従って、良質な光が提供できれば、節電の余地はまだまだあります。

近い将来、有機ＥＬやレーザーが一般用照明光として開発され、ＬＥＤのような従来光源の模倣ではなく、その特性が生かされ、照明概念が大変革することを心待ちしています。まさに照明維新であり、照明・光への夢広がる時です。

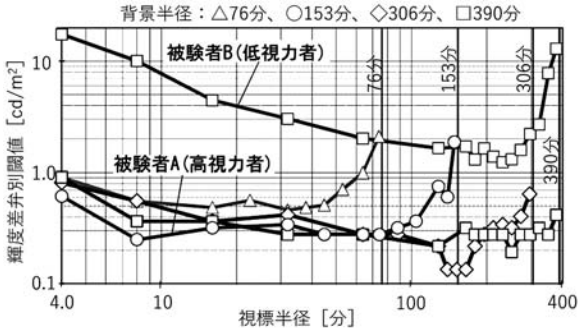


図２　視標・背景の大きさと輝度差弁別閾値[3]

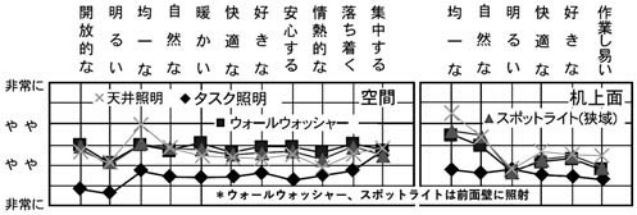


図３　アクセント照明の効果照明（作業面照度30 lx，若齢者30名）[4]

引用文献

１）大江由起、丹後みづき、井上容子：若齢者と高齢者の快適照明要件に関する研究（その４）生活行為に適した照度と色温度、日本建築学会大会講演梗概集、環境工学Ⅰ、pp. 493-494、2019
２）井上容子、岩井　彌：人の目の順応に配慮した非常用時照明―暗順応過渡過程における輝度差弁別閾値の時間特性に基づいた点灯方式―，照明学会誌，Vol. 90，No. 4，pp. 203-208，2006
３）貫島彩菜、池上陽子、井上容子：実効輝度による順応輝度予測法に関する研究―幅広い視力者を対象とした視認性に及ぼす背景の大きさの影響―、日本建築学会大会講演梗概集、環境工学Ⅰ、pp. 559-560、2019
４）Inoue, Y. and Maruyama, H.,: STUDY ONILLUMINANCE BALANCE BETWEEN WORKING AREA ANDAMBIENT, EFFECTS OF DISTRIBUTION OF LUMINOUSINTENSITY OF AMBIENT LIGHTING AND THE ORDERAND SPEED OF ADJUSTMENT, PROCEEDINGS of CIECentenary Conference, pp.133-141, 2013
５）井上容子：日中韓の住生活スタイルに基づいた快適性と省エネルギーに配慮した照明計画の検討、基盤研究（Ｂ）24300248、科学研究助成事業研究成果報告書、2017

連載 その１　―奈良県景観デザイン賞2018受賞作品―

知事賞・リノベーション賞／小南家のリノベーション

教育事業委員会

今号より昨年開催されました、奈良県建築士会主催の「奈良県景観デザイン賞2018」受賞作品を、応募者の解説により連載で紹介します。第１回は知事賞・リノベーション賞を受賞されました「小南家のリノベーション」です。

－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－・－

奈良県吉野町国栖地区は、「古事記」や「日本書紀」にも登場する、古い歴史をもつ地域である。吉野和紙や吉野割り箸の産地としても知られ、風光明媚な情景やその風土に惹かれて、十数年前から移住者も少しずつ増えてきている。しかし、近年、日本全国どこの集落同様に、高齢化が進み、空き家も急増している。

2018年秋に「奈良・町家の芸術祭はならぁと2018」が国栖地区をメインエリアとして開催された。「はならぁと」は、開催趣旨によると、「地域価値の発掘作業を通して、奈良県の豊かな文化や暮らしを過去から未来に繋ぐ、今ここから発信するアートプロジェクト」と書かれていて、地域住民とアーティストの交流や、空き家を活用したアート作品の展示など新たな地域価値の発信を目標として、昨年で８回目の開催だった。

私は、「記憶と記録と家屋に遺る」クリエイティブチームN.P.O（Nagaiwa-Norio-Naohiro-Profit-Organization）のメンバーとして参加した。簡単にＮ．Ｐ．Ｏについて説明すると、メンバーは89歳の現役大工職人の長岩正一、画家の権田直博と建築設計の私の３人からなるチームである。一般的な非営利団体のＮＰＯではなく、自分たちの利益（長岩さんはご自身の健康のため、売れない建築家と画家の私と権田さんは自分たち自身の利益）のために2012年に結成した。これまで、全国のアートイベントで展示・パフォーマンスなどの活動を展開してきた。私自身、生業として建築の設計に携わっているが、このチームの活動ではいつも新しい刺激を受けている。今回のイベントの話を聞き、また何か面白いことを地域でできたらいいなと、ふたつ返事で参加を決めた。

昨年の春に、地域の方々や、コーディネーターの緒方江美氏（トータルアートプランターうえきや）と会場候補を見て回り、吉野川沿いに連続する美しい集落の風景に豊かさを感じた。一方、空き家や使われていない民家も目につき、自分たちに何ができるのかを悩んだ。私たちは敷地として吉野川に面した空き家になっていた「小南家」を選んだ。全国で様々なアートイベントが行われているが、イベントという一過性ではない地域に愛される場所作り、新しい価値観を建築のリノベーションを通じて地域に根付かすことができないかを考えた。制作は酷暑だった昨年のお盆前の８月にフラフラになりながら３人で行い、吉野川から吹く涼風を感じながら、地域の民家に泊まり込みで行った。地域住民からは何ができるのかという不安と期待で３人の制作風景を見られていた気がした。限られた予算の中、地域産の杉材を吉野中央木材さんの協力も得て、無垢材を多用した木の塊のような内装を作った。私たちが今回のリノベーションで行ったことは、実は傷んでいる箇所を直しただけである。革新的な手法を取り入れた訳でもなく、吉野川の環境に街道からの視線を通し、盆踊りで使えるデッキを延長させて、板間、机、ベンチを設置しただけである。

この建物は数年間空き家であったが、今年に入り、主屋と合わせて借主が見つかった。このプロジェクトは小さな民家の修繕であったが、豊かな環境との接点を見出して、地域に残る空き家の価値を見直すきっかけになればいいなと期待している。修繕という創造行為を次の時代へ継承していくその先に新しいフロンティアが広がっている気がする。

吉永規夫（建築家）

【知事賞】【リノベーション賞】
作品名：小南家のリノベーション
施　主：奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会
設計者：吉永規夫
（Office for Environment Architecture）
施工者：ＮＰＯ

全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会記録

令和元年９月20日（金）14時から函館市の金森赤レンガ倉庫群内にある金森ホールで全国ヘリテージマネージャー（HM）ネットワーク（N）協議会総会が開催された。

14時半からのまちあるきに先立ちテーマ「商いと大火」で見どころの説明があった。

函館は、明治以降、100戸以上を焼失する大火が26回も発生し、明治40年の大火では、港の倉庫群、区公会堂、住戸（12390戸）が焼失。

その後、旧函館区公会堂再建に多額の寄付をした豪商・相馬哲平氏の邸宅が明治41年に新築、赤レンガ倉庫群が明治42年に不燃質の倉庫として建築、類焼した真宗大谷派東本願寺函館別院は、大正４年に日本初の鉄筋コンクリート造寺院として建て替えられた、との説明を受けた。

説明後、金森赤レンガ倉庫群、東本願寺函館別院、相馬邸及び旧丸井今井百貨店を含む、函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区内を15～20名ずつ４班に分かれ、函館観光ボランティアの案内で建築物外観及びまちなみを２時間程度散策見学した。

まちあるき後、金森ホールに戻り、17時から19時まで協議会総会では、全国各ブロックからHM講習会の開催等による人材育成の現状、活動ネットワーク組織の立ち上げ状況、ブロック協議会等の広域連携について報告があった。また、全国HMN協議会の協議会委員に建築士会連合会がなり、士会連合会歴史まちづくり部会委員長が全国HMN協議会の運営福委員長となる等協力体制を確認した。

最後に次回建築士会全国大会が開催される広島県建築士会及びHMから令和２年11月13日に総会を開催する旨のアピールが行われ閉会となった。

19時からは、同金森ホールにて交流会が開催され、全国のHMとの親交を深めた。

（記・奈良ヘリテージ支援センター
副代表世話人　髙安秀和）

第62回建築士会全国大会「北海道大会」報告

第62回建築士会全国大会「北海道大会」が９月21日（土）に函館アリーナで開催されました。北海道大会は今回で５回目（前回は平成19年第50回大会）ということで圧倒的な開催率に驚かされます。テーマは「Re＋（リクロス）明日（みらい）のまちに輝きを」。奈良県からは41名が参加し、高田支部：的場　清様・五條支部：出野光男様の両名が日本建築士会連合会会長表彰を受賞されました。午前中は、2900名の参加者が８つのセッションで熱い議論を繰り広げました。午後からは、藤本壮介氏の記念講演が行われました。テーマは「Between Nature and Architecture」。「ラルブル･プラン（白い木）」というバルコニーが四方八方に突き出して大木のように見える集合住宅等が紹介されました。その後、大会式典、大交流会と続き、最後に函館夜景バスツアーが行われました。

（記・情報・広報委員会　大倉克之）

セッション

集　合　写　真

お知らせ

●第38回近畿建築祭　奈良大会

日　　時：令和元年11月30日(土)　　10：00～16：30
　　第１部　建築活動事例　発表会
　　第２部　河瀬直美監督　講演会
会　　場：奈良春日野国際フォーラム　甍
※一般の方も申込が出来ます。詳しくはＨＰか事務局まで。

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

（更新及び新規登録）
開催日：令和２年１月16日(木)
会　場：奈良県文化会館　小ホール
※詳細、申込については後日ご案内差し上げます。
※会場へはなるべく公共交通機関をご利用ください。

●令和２年新年大交歓会のご案内

新年大交歓会を開催いたします。是非ご参加ください。
日　　時：令和２年１月24日(金)　18：30～
場　　所：ホテルリガーレ春日野（奈良県奈良市）

●新入会員

氏　　名	支部	勤　務　先
水　杉　弥　生	橿原	㈱中西構造設計
松　田　拓　己	奈良	㈱竹中工務店
茨　木　勇　貴	奈良	ゆうき建築工房
松　尾　健　吾	郡山	大和郡山市役所
藤　岡　大　典	奈良	ARCHIF
早　瀬　佳　奈	高田	㈱伸構造事務所
村　島　　朗	高田	㈱伸構造事務所
乾　　真　章	高田	㈱伸構造事務所
山　城　正　史	高田	㈱伸構造事務所

編集後記

記事を書いている９月末現在、千葉県で停電が続いている等、台風による被害からの復旧が進まない報道が連日行われています。停電は電力会社が復旧してくれますが、建物の被害はそういう訳には行きません。

特に日本瓦葺きの屋根の復旧が職人の手配が付かず、遅れているようです。思えば新築住宅で瓦葺きの家はほとんどありません。今はまだ、瓦葺きの家もそれなりに残っていますが、建て替えが進めばそれもなくなるでしょう。我が家は瓦葺きですが、そのうち近所の子ども達に「おじちゃんの家、なんでお寺みたいな屋根してるの？」といわれるかもしれません。

（記・大倉克之）

11月

3（日）　● 文化の日
4（月）　● 振替休日
20(水)　監理技術者講習
23(土)　● 勤労感謝の日
30(土)　第38回近畿建築祭　奈良大会

12月

5（木）　二級・木造建築士試験合格発表（予定）
19(木)　一級建築士試験合格発表（予定）
　　監理技術者講習
27(金)　事務局仕事納め
28(土)　年末年始休業（～１月５日迄）

士會奈良　通巻628号
令和元年11月1日(発行隔月1回1日発行)
発　行　所　一般社団法人　奈良県建築士会
〒630-8115　奈良市大宮町2丁目5-7　奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111　ＦＡＸ 0742-33-4333
http://nara-kenchikushikai.or.jp/
info@nara-kenchikushikai.or.jp
発行責任者　米　村　博　昭
編　　集　(一社)奈良県建築士会　情報・広報委員会
印　刷　所　株式会社　明新社

情報・広報委員会

委員長　松尾　憲治
副委員長　折目　貴司　　大倉　克之
委　　員　乾井　　哲　　福本　保治
　　水守　寛敏　　松田　七彦
　　洞　　尚樹　　松村　泰徳
　　小松原寛俊　　森　　茂雄
　　福田　成生　　押部　　誠

奈良県のストレート合格者の９割以上は総合資格学院の当年度受講生！

平成30年 1級建築士 学科・設計製図試験
奈良県 合格者占有率 No.1
奈良県 ストレート合格者占有率 92.9%
他講習利用者＋独学者　当学院当年度受講生
奈良県ストレート合格者14名中、当学院当年度受講生13名

平成30年 1級建築士 設計製図試験
奈良県 合格者占有率 69.4%
他講習利用者＋独学者　当学院当年度受講生
奈良県合格者36名中、当学院当年度受講生25名

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。　<平成30年12月20日現在>

開講迫る!!　2019 平成31年度　1級・2級建築士 学科対策講座　受講生募集中!!　お申込みはお早めに!
1級・2級 建築士　構造設計 1級建築士　設備設計 1級建築士　建築設備士　インテリアコーディネーター
1級・2級 建築施工管理技士　1級・2級 土木施工管理技士　1級・2級 管工事施工管理技士　宅地建物取引士　賃貸不動産経営管理士

総合資格学院　学院長 岸 隆司
総合資格　検索　Facebook「総合資格 ち」で検索
スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
奈良校 TEL.0742-30-1511
奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F
近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分